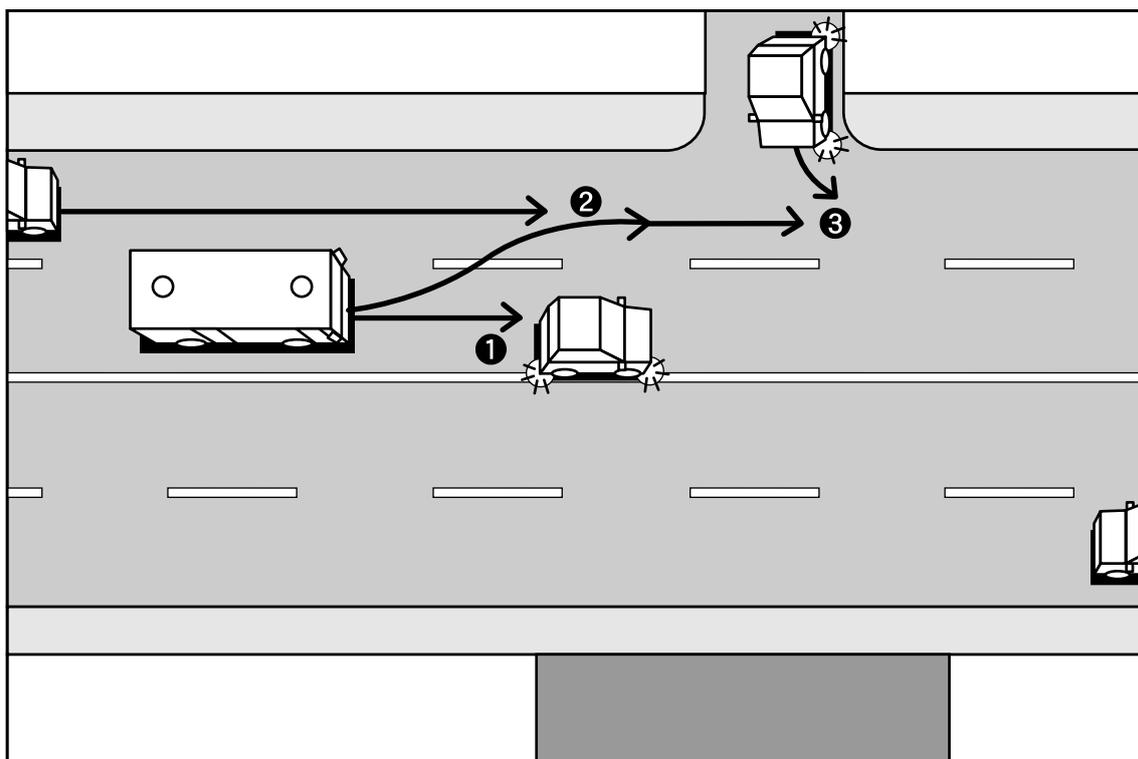


# 危険予知トレーニングシート 解説

## 【バス】

- 片側2車線の道路を走行
- 夜間、営業所に戻るため左折
- 住宅街の走行
- 片側1車線の道路を走行
- 雨天時の走行

## 〔バス 1〕 片側 2 車線の道路を走行



### 1. 主な危険要因の例

- ① 右折のために停止をした前車に気づくのが遅れると、追突する危険がある。
- ② 停止した前車を避けるために左側に進路変更すると、後続車と接触する危険がある。
- ③ 停止した前車を避けるために左側に進路変更すると、脇道から出ようとしている車と衝突する危険がある。

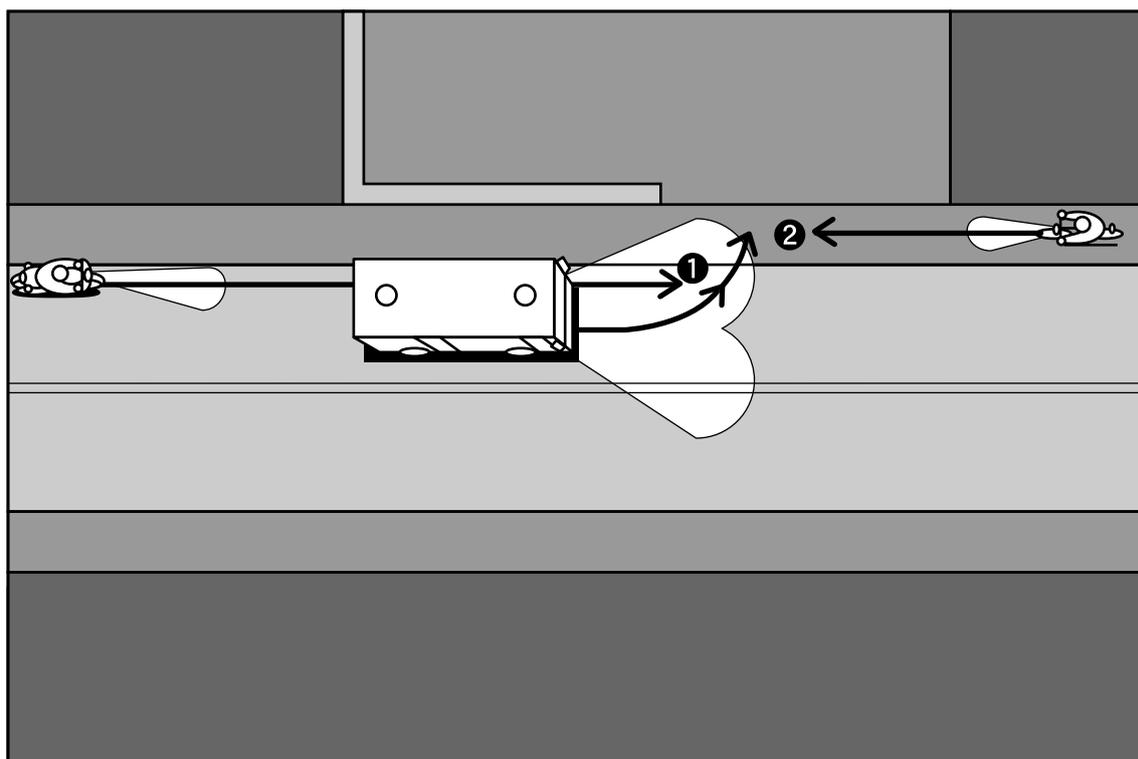
### 2. 安全運転の例

- ① 単路でも前車との車間距離を十分保持して走行する。
- ② 前車がいつ減速や停止するかわからないので、常に前車の動向に注意して走行する。
- ③ 前車が右折等のために停止したときは、あわてて進路変更はせず、必ず後続車を確認し、後続車がいるときは停止して通過を待つか、前車が右折していくのを待つ。

### 3. 乗務員指導のポイント

- ① 単路でも、進路変更などのために前車が減速や停止などの変化があるので、前車の動向から目を離さないよう指導する。
- ② 進路変更するときは、必ず後方の確認をするとともに、自車は大型車だから相手が譲ってくれるだろうと考えて強引な進路変更することは絶対にしないよう指導する。

## 〔バス2〕 夜間、営業所に戻るため左折



### 1. 主な危険要因の例

- ① このまま左折すると、左側の後方から走行してくる二輪車と衝突する危険がある。
- ② このまま左折すると、歩道を進行してくる自転車と衝突する危険がある。

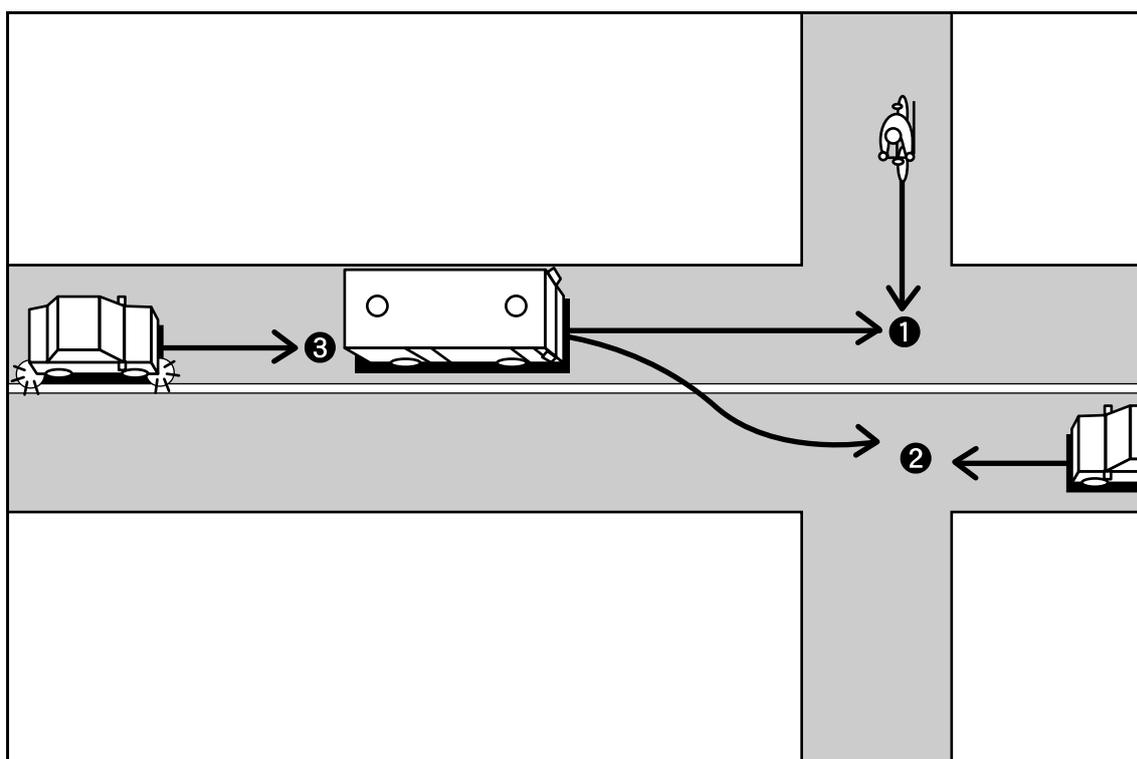
### 2. 安全運転の例

- ① 左折する前に、必ず左後方の状況を確認し、二輪車が接近しているときは、先に行かせる。
- ② 歩道の手前で一時停止して、歩道に自転車や歩行者がいないかどうかを確認する。
- ③ 左折するときは徐行する。

### 3. 乗務員指導のポイント

- ① 営業所の近くまでくると、気が緩んだり、早く戻ろうという意識が働いて、安全確認がおろそかになりやすいので、営業所に入って車を止め下車するまでは、決して気を抜かないよう指導する。
- ② 左折するときは、必ず左後方の状況を確認し、二輪車が接近していないかどうかを確認するよう指導する。
- ③ 歩道を横切るときは手前で一時停止し、歩道の状況を確認するよう指導する。特に夜間は無灯火の自転車も多いので、その点にも注意するよう指導する。

## 〔バス3〕住宅街の走行



### 1. 主な危険要因の例

- ① 左側の脇道から自転車が接近しており、このまま走行すると、自転車と衝突する危険がある。
- ② 自転車を避けようとして右側にふくらむと、センターラインをはみ出して対向車と衝突する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

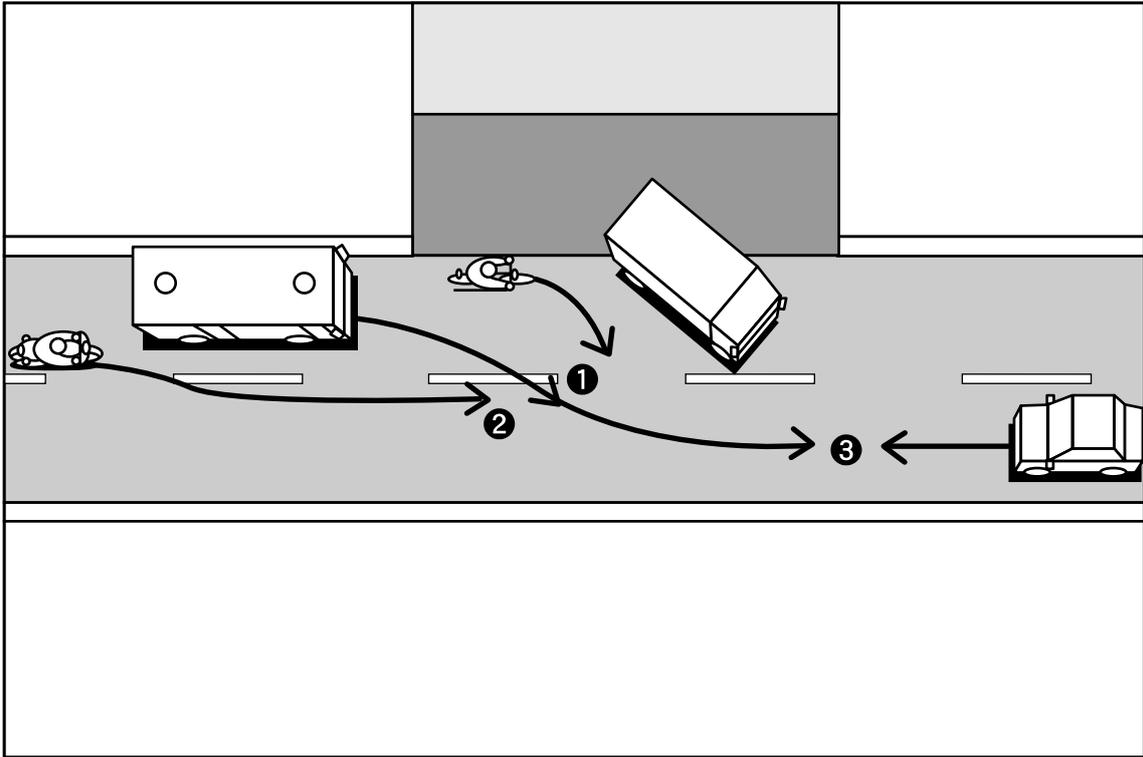
### 2. 安全運転の例

- ① 左側から接近してくる自転車の動向に注意しながら、スピードを落とす。
- ② 自転車に停止する気配がないときは、徐行または一時停止して自転車を先に行かせる。

### 3. 乗務員指導のポイント

- ① 住宅街では、あらかじめスピードを落として走行するよう指導する。
- ② 住宅街の見通しの悪い交差点などでは、自転車が飛び出してくることも多いので、その点をよく認識させるとともに、次のような自転車の行動特性について理解させる。
  - ・一時停止が必要な場所でも一時停止せずに飛び出してくる。
  - ・後方の確認もせず、合図もしないで急に進路変更してくる。
  - ・一方通行を逆行してくる。
  - ・学校の下校時間帯では、数台の自転車が並進し道路を塞いだり、自転車同士が接触して転倒することがある。

## [バス4] 片側1車線の道路を走行



### 1. 主な危険要因の例

- ① 前方のバックしているトラックを避けようとして、自転車が右側に進路変更すると接触する危険がある。
- ② 右後方の二輪車がバスを追い越して、強引に先を行こうとすると接触する危険がある。
- ③ センターラインをはみ出すと、対向車と衝突する危険がある。

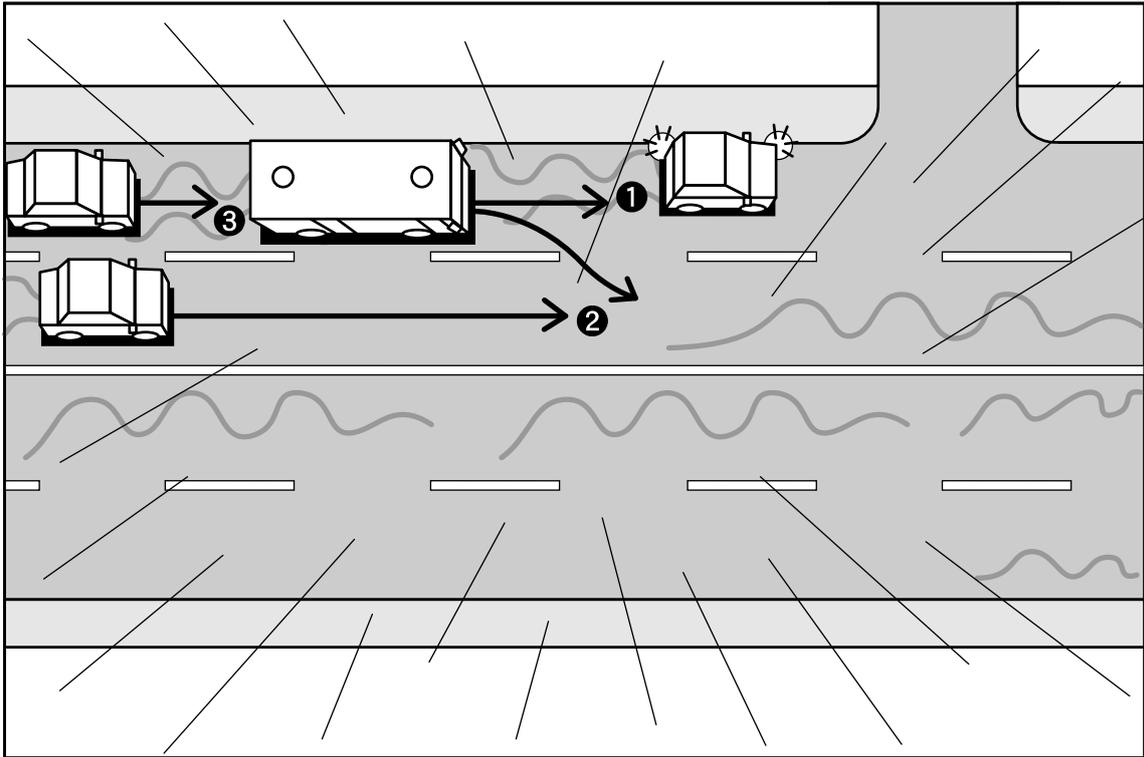
### 2. 安全運転の例

- ① 前方でトラックがバックしているときは、あらかじめスピードを落として接近する。
- ② 無理に先へ行こうとはせずに、一時停止してトラックのバックが完了するのを待つ。

### 3. 乗務員指導のポイント

- ① 前方にバックする車両等があって進路が塞がれているときは、徐々にスピードを落として進行し、無理に先に行こうとはせずに、一時停止して進路が空くのを待つよう指導する。
- ② 前方に障害物があるときは、他車も予想外の行動をとることがあるので、他車の動向に十分注意するよう指導する。

## 〔バス5〕雨天時の走行



### 1. 主な危険要因の例

- ① 左折のために減速や停止をした前車に気づくのがおくれると、前車に追突する危険がある。
- ② 前車との追突を避けようと右側に進路変更すると、後続車と接触する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

### 2. 安全運転の例

- ① 前車との車間距離を十分保持して走行する。特に雨天時は停止距離も長くなるので、いつもより長い車間距離を保持する。
- ② 前車がいつ減速や停止するかわからないので、常に前車の動向に注意して走行する。
- ③ 進路変更をするときは、必ず後続車の確認をする。

### 3. 乗務員指導のポイント

- ① 次のような雨天時の安全運行の基本を理解させる。
  - ・濡れた路面では停止距離が長くなるので、いつもより長い車間距離を保持するとともに、スピードも落として走行する。
  - ・急ハンドルや急ブレーキはスリップの原因となるので、そのような操作を必要としない慎重な運転をする。
- ② 雨天時はミラーが水滴で見えにくくなるので、進路変更等をするときは、特に注意して後続車の有無を確認し見落としのないよう指導する。